

## 05: 弓道と礼について

礼は、相手に対し恭敬親愛の心を形に表すことであり、深い教養が表に現れ、威儀あり、典雅な動作であることが肝要である。

日本の弓が長弓としての独特の性格をもったのは、儒教の影響を受けて弓技から弓道へと進み、「弓道」としての道義性が弓射に主要な位置をしめるようになったからであるが、「射は礼に始まり礼に終る」といい、また「進退周還必ず礼にあたる」といわれ、弓を射る方法である射法と礼が一体となっている。今日「射礼」といわれるのがそれである。

このように、精神を重要視している射では、正しい信念に基づき、誠を尽くし、調和の美を求めるものである。

## 06: 三位一体について

三位一体とは心身弓の三者が合一して一体となることで、その内容は、身体の安定、心気の安定、弓技の安定の三者が合一して一体となる。

この三者を合一させるために弓道の先覚者は法をとき、術を述べてその意を残している。礼記に「射は進退周還必ず礼にあたる」とあり、身体の安定、心気の安定、弓技の審固の三点を眼目とし、これを修練することによって仁義礼智真の徳行が体得される。

また射法訓に「而して心を納む、これ和合なり」とあり、心を丹田に収め、心身弓の和合を図れとのことで、三位合一の会を示している。このように弓道の修練は三位を合一することが目標である。

## 07: 基本体の必要性について

(関連:・射を行う心構えと態度について)

現代の弓道は狩猟の道具や武器ではなく、身体の強健さや礼節、信義、克己、謙譲、大和等の精神を養い日常生活を豊かにすることである。

しかし現実には射は会から離れという風潮に支配されがちであったが、現代弓道の本質を忘れてはならない。

道は本にして技は末なり。本立たずして末正しきものはなしということである。

注意点として、射を行うにあたっては、起居進退は規矩に従い恭敬親愛の容儀をそなえ粗卒倨傲の態度が無きようにすること。男子は威儀正しく質実剛健、従容典雅であること。女子は優雅のうちに容姿凜然たること。

礼記に「射は進退周還必ず礼にあたる」とあるが、内的には煩悩を去って生気をたたえ、外的には起居進退に隙がなく、基本体である自然体を保持して作法にかなった体配が必要である。

心の持ち方、基本の動作、射技等、心身弓の三位が合一となってこそ真善美を顕現する。